

健康

質問

悪性リンパ腫と診断を受け、抗がん剤治療を受けることになりました。副作用で感染症にかかりやすくなると聞きました。どんなことに注意すればいいですか。

抗がん剤治療中の感染症対策



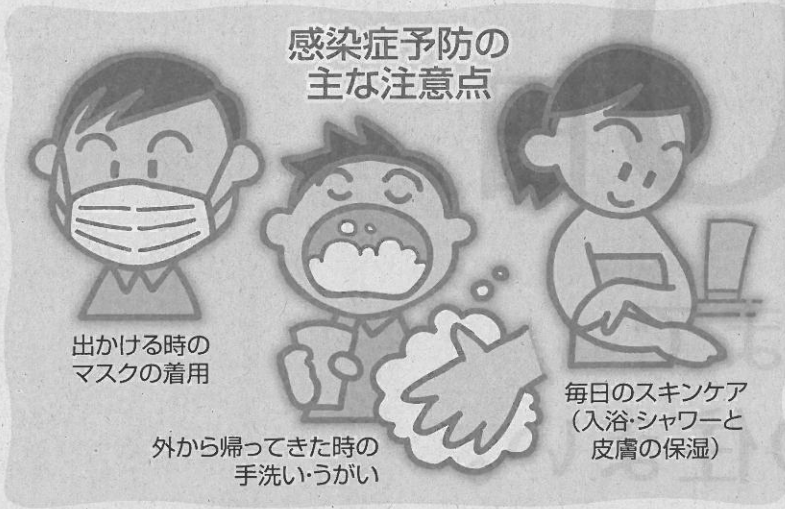
尾形 美子
徳島大学病院看護部
がん看護専門看護師

回答

体の中には、白血球、赤血球、血小板という血液の成分が作られています。抗がん剤治療を行うと血液を作り出す機能が阻害され、正常な血液ができなくなります。これを骨髄抑制といいます。

白血球には、体の中に侵入してくる細菌やウイルスなどの異物を排除する役割があります。白血球の一種である好中球は細菌などが侵入すると、最初に集まって攻撃し、排除しようとする働きがあります。抗がん剤の種類や個人差もありますが、抗がん剤投与後1〜2週間ぐらいに好中球数が最も少なくなります。好中球が減っている時に感染症を起こすと重症となる場合もあるため、

面会制限し生もの控えて



感染症予防の
主な注意点

出かける時の
マスクの着用

外から帰ってきた時の
手洗いうがい

毎日のスキンケア
(入浴・シャワーと
皮膚の保湿)

イラスト・榎原 忍

がん
何でも
Q&A

日頃から感染から身を守る生活習慣を身に付けて

おくことが大切です。風邪をひいている人との面会も制限します。虫歯や歯周病があると感染症を起こしやすいため、治療前には歯科を受診しておきましょう。徳島大学病院では、口腔管理センターと連携し、入院時に受診してもらっています。また、食事や環境にも配慮が必要です。好中球が少ない時は、生野菜や生魚などの摂取は控えてください。好中球数が少ない期間が長くなると、個室隔離やクリーンルームの中で過ごしてもらわなければならない場合もあります。医療スタッフも、白血球や好中球の推移を常に把握し、感染症の予防や発症時の対応を速やかに行っています。

好中球が減少している時は、皮膚、口、腸管、肛門部、陰部など体のどの部位でも感染症を起こす可能性があるため、感染していないか注意深く観察してください。発熱など気になることがあれば、速やかに医師や看護師に報告しましょう。初めての治療で、心配や不安なことがたくさんあると思います。医療スタッフは患者が安全に安心して治療を受けられるようサポートしていきます。気軽に何でも相談してください。

(第4土曜掲載)

発熱時は医師に報告

がんに関する質問は
徳島がん対策センター
〈電088(634)6442〉

(平日午前8時半から
午後5時まで)へ。

